

第57回 鎌田地区球技大会が開催される!!



大勢の方が参加した開会式



選手宣誓!!



◀マレットゴルフ▶ (奈良井川河川敷)



7月6日(日)、鎌田地区体育協会(宮澤文夫会長)主催により、第57回鎌田地区球技大会が開催されました。

西部運動広場で開会式の後、野球、卓球、ソフトバレー、マレットゴルフの熱戦が地区内各所で行われました。

前日までは雨天が続く毎日でしたが、当日は天候に恵まれ、予定通り全ての競技がとり行われました。今後は、優勝チームを中心に鎌田地区代表チームを編成し、松本市市民体育大会秋季大会、松本市長杯争奪球技大会に挑みます。

第57回鎌田地区球技大会 成績

種目	優勝	準優勝	三位
野球	高宮	両島	征矢野 笹部
卓球	鎌田	石芝	南原
ソフトバレー	シルバー	石芝	南原 笹部 征矢野
	ブロンズ	南原	高宮 両島 井川城中
ゲートボール	笹部	—	—
マレットゴルフ	男性	両島	笹部 南原
	女性	月見町	南原 五月町
総合	笹部	南原	両島



△▽野球 (西部運動ひろば)



◀ソフトバレー▶ (西部体育館)



卓球▶ (鎌田中学校)



しかし、各行事の出席者は20数名、同じ顔ぶれである。三九郎に至っては小学生が10人前後のため、三九郎の製作

町会行事としては、4月通常総会、6月町内一斉清掃・消火訓練・マレットゴルフと子ども散策、9月町内一斉清掃・総合防災訓練・敬老祝賀会、11月町内菊花展・文化祭、1月町内新年会・三九郎、これが町会の主な行事である。

中条南町会は、北に薄川、南に田川に挟まれ、東はJR篠ノ井線に囲まれた一角である。そこに、総戸数130戸、平均年齢60代後半という高齢化が進んでいる町会である。

町会を紹介する。

公民館報「街かどの話題」

132

街かどの話題

町内活性化の妙薬は?

中条南町会

公民館長 荒井 正史



総合防災訓練の様子

今後、町会の行事・活動を維持する為には、アパートに住む方々にも積極的に活動していただくしかないのである。不動産業者が募集する際、「町会に入会しなくてよい」と言っ

て募集するとの情報もある。何とか町内を活性化させる妙薬は無いものであろうか。

今、地方においては高齢化・過疎化が急速に進み集落が崩壊しつつあり、大きな問題になっている。我が町会も同様である。子どもの遊ぶ声が聞こえないのである。将来は町内の行事・活動はおろか、役員の確保もままならないであろう。賃貸マンション・アパートは町会費も管理費という名目で集められ、住民は町会に入会していることすら認識していないと推測される。

から、後片付けまで保護者と町内役員が行うという有様である。また、松本地方特有の行事である青山様・ぼんぼんは人数不足のため現在は行われていない。

避難所運営について学ぶ

ビックパレットふくしま避難所の運営から



講師 天野 和彦

西部、田川の両公民館が合同で5月31日、西部公民館で、「避難所運営講座」を開催した。東日本大震災で約2500人を収容した避難所の運営に携わった、福島大学つくしまふくしま未来支援センター特任准教授 天野和彦氏を招き、避難所運営の注意点等について、80人が学んだ。

天野氏は、福島第一原子力発電所の事故により被災者の暮らしが失われている。元の場所に戻りたくても戻れない。すなわち、故郷がなくなると

は避難所における良好な生活環境を確保し、被災者の避難生活に対するきめ細やかな支援をすることが指針として示された。

いうことで、今、「地域の絆」が大切になっていると、3年を経過した避難生活の現状に触れた後、避難所の運営についての話があった。

指針の構成と主な内容は、平時時の対応と発災後の対応に分かれている。特に発災後の避難所運営は、福祉避難室用スペースの確保、男女別トイレの確保、運営責任者の配置、役割分担の明確化

ビックパレットふくしまでの避難生活は、最初の1ヶ月位は統率がとれておらず、ただ食べては寝る状態だった。このため感染症（ノロウイルスや結核）の流行が見られ、死者が出る恐れもあると、県から要員が派遣され避難所運営にあたった。

・ 食事の原材料表示、アレルギー原因食品の情報提供
・ 在宅避難者の見守り機能の充実、支援物資の提供
などあるが、災害に強い町づくりには防災訓練を繰り返し行い、いざという時にあわてないよう準備しておきたい。

この経験をもとに国では、「災害対策基本法」の一部改正を行い、市町村

松本市では平成25年に、地域防災計画の修正に合わせ、「避難所開設・運営ガイドライン」を策定している。地域の防災活動に活用してほしい。



この経験をもとに国では、「災害対策基本法」の一部改正を行い、市町村

松本市では平成25年に、地域防災計画の修正に合わせ、「避難所開設・運営ガイドライン」を策定している。地域の防災活動に活用してほしい。

(松川 靖彦)

新聞・旧聞

私が母と満州へ渡ったのは昭和11年4歳だった。国鉄職員だった父は1年程前に渡満し南満州鉄道会社の鉄道局で運転手をしていた。

最初に当時の熱河省承德市に5年程住んだ後、遼東湾に臨む錦州の満鉄住宅に移り住んだ。同じ行政区内の近くにコロナウ港があり、後に大変な幸運に恵まれることになる。この年には日米戦争が始まり、大変緊張した記憶がある。

ソ連の侵攻が始まったのは昭和20年8月9日だが、錦州まで来たのは8月15日以降だった。錦州郊外に駐屯する関東軍が武装解除され、私ら中学生も校庭に集められ38銃など武装解除を受けた。学校は閉鎖になったが父は運転指令として勤務を続けていた。

9月初めに母が満鉄病院で妹を出産、医者も看護婦も居なくなった病院に母の食事を毎日運んでいたが、ソ連兵や暴民の荒れ狂う中を必死で母を連れ帰った。やがて次々と避難してくる満鉄社員は住宅に詰め込まれ、一般人は学校等に収容された。満鉄住宅は鉄条網の電気柵で囲った為安全だったが、一般の日本人宅はソ連兵

や暴民により略奪・暴行が行われた。ソ連兵が去って八路軍が支配しその後銃撃戦の末、国府軍に制圧された。お金は日本紙幣、満州紙幣、軍票などすべて使えず国府軍の軍票のみが流通した。生活費を得る為背広、ネクタイ、着物などを公園で売り、叔父夫婦が私の辞書をバラして作った紙巻タバコを私と友人が売り歩いた。そんな間にも満州北部から押し寄せる開拓団ほか居留民の難民の為に住宅が必要となり、住民の私達を先に日本へ帰還させることになった。昭和21年5月14日から23年までに105万余名がコロナウ港から帰還した。5月29日博多港に上陸して涙が溢れたことを強く憶えている。13歳だった。これが私の満州に関する僅かな記憶だが、背景には語り尽せぬ膨大な悲劇の記憶がある。こんな事は二度と起こしてはならない。(聞き書き 柵山 輝之)

満州の記憶

川上高義 南原町会

私が母と満州へ渡ったのは昭和11年4歳だった。国鉄職員だった父は1年程前に渡満し南満州鉄道会社の鉄道局で運転手をしていた。最初に当時の熱河省承德市に5年程住んだ後、遼東湾に臨む錦州の満鉄住宅に移り住んだ。同じ行政区内の近くにコロナウ港があり、後に大変な幸運に恵まれることになる。この年には日米戦争が始まり、大変緊張した記憶がある。ソ連の侵攻が始まったのは昭和20年8月9日だが、錦州まで来たのは8月15日以降だった。錦州郊外に駐屯する関東軍が武装解除され、私ら中学生も校庭に集められ38銃など武装解除を受けた。学校は閉鎖になったが父は運転指令として勤務を続けていた。9月初めに母が満鉄病院で妹を出産、医者も看護婦も居なくなった病院に母の食事を毎日運んでいたが、ソ連兵や暴民の荒れ狂う中を必死で母を連れ帰った。やがて次々と避難してくる満鉄社員は住宅に詰め込まれ、一般人は学校等に収容された。満鉄住宅は鉄条網の電気柵で囲った為安全だったが、一般の日本人宅はソ連兵や暴民により略奪・暴行が行われた。ソ連兵が去って八路軍が支配しその後銃撃戦の末、国府軍に制圧された。お金は日本紙幣、満州紙幣、軍票などすべて使えず国府軍の軍票のみが流通した。生活費を得る為背広、ネクタイ、着物などを公園で売り、叔父夫婦が私の辞書をバラして作った紙巻タバコを私と友人が売り歩いた。そんな間にも満州北部から押し寄せる開拓団ほか居留民の難民の為に住宅が必要となり、住民の私達を先に日本へ帰還させることになった。昭和21年5月14日から23年までに105万余名がコロナウ港から帰還した。5月29日博多港に上陸して涙が溢れたことを強く憶えている。13歳だった。これが私の満州に関する僅かな記憶だが、背景には語り尽せぬ膨大な悲劇の記憶がある。こんな事は二度と起こしてはならない。(聞き書き 柵山 輝之)

雑感

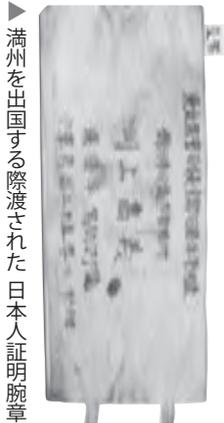
手塚英男講話集の第4話

に、人間老いに向かう時、与えられた老後ではなく、自ら築く老後の生き方について述べられている。いきいきとした人生を送るには自立心を常に持つことだという。すでに社会の一線から身を引き、老後の道を歩みつつある私達も老いの制約は避けられない。また、信州の高齢者から教わった様々の幸せがあるという。「健康という幸せ」、「仲間のある幸せ」、「やることのある幸せ」、「生きてきた証のある幸せ」などである。私は今までいくつかの活動に携わってきたがそのように感じたことはあまりない。でも今後はそうした幸せもあることを頭に入れて生きていきたい。

この度、私は地区版8年(うち5年は全市版を兼ねる)続けてきた編集委員を退くことになりました。多くの皆様に支えられて今までやってこられましたことに、心より感謝致します。特に全市版表紙の写真を数回掲載してもらえたことは、証のある幸せです。頭の体操に今後も「雑文」をできるだけ綴り、生涯学習をずっと続けていけたらと思っています。

この度、私は地区版8年(うち5年は全市版を兼ねる)続けてきた編集委員を退くことになりました。多くの皆様に支えられて今までやってこられましたことに、心より感謝致します。特に全市版表紙の写真を数回掲載してもらえたことは、証のある幸せです。頭の体操に今後も「雑文」をできるだけ綴り、生涯学習をずっと続けていけたらと思っています。

(林 清吉)



満州を出国する際渡された日本人証明腕章